

【全体計画】「0歳児から5歳児（6学年）の教育課程の基となる計画」

保育理念		たくましい・知・徳・体を育む中で、時代に即した生きる力を養い、夢を抱きまわりの人の役に立てる（社会に貢献できる）土台を育成する。		教育・保育目標 （育てたい姿）		様々な子どもたちの遊びや体験・経験の中で人との関わりを通して乳幼児期に大切な非認知的能力を育むこと。（★裏面参照）							
目指す子ども像		たくましさ・主体性・自己肯定感・思いやりと想像力											
学年		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
年間目標		・保育者との信頼関係を深める ・個々のリズムで生活し安心して過ごす ・環境との関わりの中で様々なものに好奇心と興味をもち楽しむ		・保育者と信頼関係を築き、安心して過ごす。 ・様々な体の動きを経験し、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう ・友だちのしていることに興味をもち、友だちと同じものを使って遊びを楽しむ		・一人ひとりが安心して生活を送る中で、自分の思いを表現し、十分に自己発揮していく。 ・自分でできることが増え、生活に必要な身の回りのことを自分ですようとする。 ・保育者や友だちといっしょに言葉のやりとりを楽しみイメージを共有しこっこ遊び楽しむ。		・園生活に慣れ親しみ、安心して過ごす ・他者への興味をもち、遊びを通して関わり合う喜びや楽しさを知る ・新しい環境の中で、自分の思いを表現し、様々な事柄に興味・関心を持つ		・自分自身に対して肯定的な感情を持ち、安心して自己発揮をし園生活を楽しむ。 ・遊びや生活の中で自分のやりたい事を見つけ遊び込む。またその中から自分で問いや課題に向けて工夫して挑戦する。 ・保育者や友だちに親しみを持ち、他者と共に遊んだり生活する事の喜びや楽しみを見つける。		・豊かな体験を積み重ねながら互いの健康や安全への生活習慣意識をもち主体的に行動する力や生きる基礎を育む。 ・自分の気づきや考え、思いを伝え合い、友だちと共有しながら互いに試行錯誤し工夫しながら友だちと考え、判断し、遊びを通して充実した園生活を楽しむ。 ・自然や季節、文化、社会、様々な人との関わりながら好奇心や探求心、遊びや生活に取り入れる。	
育てたいことの姿	健やかに伸び伸びと育つ	生活リズムが大切にされることで欲求が満たされ、生命の保持と生活の安定が図られる。	健康	安全で健康な環境の中、体全体を動かし、楽しく食べる、生活リズムが大切にされ、安心して睡眠をとる。	全身を使う動きやつまむ、丸める、めくるなど手や指を使う動きができるようになり、それを遊びとして楽しむことができるようになる	・食事、排泄、衣服の着脱な基本的生活習慣ができる様になり自信を持つ。 ・バランス感覚が少しずつ養われる時期。（片足立ちや左右別々の行動が出来る。） ・自分の生活の場所を知り、お友だちと活動する楽しさを十分味わう。	・身の回りのことが殆ど自分で出来る様になり、園生活の中で1日の見通しをもって活動できる。 ・全身のバランスが安定し、体の動きも2つの動きが同時に出来る様になる。（スキップ・片足とび）	・生活習慣が自立し、見通しだけでなく自ら健康で安全な生活を楽しみ、年長児として年下の子どもをいたわる様になる。 ・目、手、体全ての部位が思う様に動かすことができる。（複合応用運動）					
	身近な人と気持ちに通じ合う	腹ばい、はいはい、伝え歩きなど全身の動きが活発になり、自分の意志で体を動かそうとする	人間関係	安心してできる人と一緒にいたいと思い、人見知りするようになる。保育者や友だちを確かめながら興味・関心を広げる	大人に手助けされながら食事・排泄・着脱など簡単な身の回りのことを自分でしようとする。「じぶんで」とよく言う。「いや」という自己表現。	・お友だちとの関わりが楽しくなり、みんなのそばにいて同じ事を経験する事に嬉しさを感じる。 ・気の合う友だちと遊び始める。	・自己認識や自分や他人との区別がはっきりし、周りへの興味・関心への活動がより広がります。 ・仲間への意識が深まり協力して遊ぶことの楽しさや達成感を味わう。 ・年長児の姿に刺激を受け、遊びを取り入れることの自分たちで工夫する楽しさを知る。	友だち同士の仲間意識が出来、集団を意識することや友だちの個々の良さに気付く。規範意識が高まり、決まりや時間配分をつくり、園生活を自主的に送る。					
		泣く、笑うの喃語を発するなど自分の欲求を表現し、特定の大人と関わろうとする	言葉	応答的な大人との関わりにより、指さし、身振り、片言などを使って、自分の気持ちを伝えようとする	挨拶や返事など生活に必要な言葉を使ったり、「なんで？」などの質問が盛んにできたり、くり返しのある言葉を楽しむ	・自分の思いを言葉に出来ることを楽しむ姿が見られ、また遊びを通してお友だちとの関わりから遊び、生活に必要なことはを知る。	・周りの様々なことへの関心が高まり、自分の考えと、相手の判断行動との違いに気付くと保育者に伝え、言葉に出すことで満足し、安心感を味わう姿が見られる。 ・自分の思い、自分の言葉で伝える姿が見られる。	語量が増え、想像力が豊かになり日本語の仕組みに気付く。 まだ、自分の気持ちを相手に分かる様に伝えるとともに、相手の話すことも理解しようと注意して聞く。					
	身近なものとの関わり感性が育つ	安心できる人的、物的環境の下で見たり触ったりする機会を通して周りの環境に対する興味や好奇心が芽生える	環境	段差を上ったり、すべり台を滑ったり、自分からいろいろな環境に関わろうとするようになる 手先・指を使って物を触ったり、紙を破る、小石を穴に入れるなど探索活動が活発になる	行動範囲が広がり、友だちとの関わりを少しずつ求めるようになる。興味をひかれるものがあると、探求心を発揮する	・自我が芽生え、大人との関係から周りの人のことが分かり、友だちに興味をもち、気の合う友だちと関わりをもつ。 ・友だちとイメージを共有して同じ遊びをする中で仲間意識が高まり、ルールを守る（分け合う、順番がある）ことを知る。 ・身近な自然物、動物、生き物に関心をもち、興味を持ち、観察する。	・友だちの思いに気付き、時には自分の思いを我慢しながら相手（お友だち）の気持ちを考えようとする姿が見られる。 ・活動する中で進んで新しい事にも参加する姿が見られる。（試す・工夫する・考える） ・身近な自然に興味をもつことで、より理解を深めようとする姿やイメージをもって話すようになる。	・友だちの気持ちと自分の気持ちに違いがあってもお互いで話をしながら共感性が高まり、協同的に考え、主体的に参加する姿がみられる。 ・日常生活の中で数量・図形・記号・文字・磁石への興味が深まる。 ・動植物の飼育栽培など様々な環境の中で命の大切や心がある事を理解する。					
		保育者に見守られて、玩具や身の回りの物で一人遊びを十分に楽しむようになる	表現	言葉の理解が進み、「なに？」と聞いたり、指さしをしたりして物の名前を知りたがるようになる	周りの人の行動に興味を示し、盛んにまねたり、歌ったりする。つもり遊び、見立て遊びが盛んになる	・自分が想像したものをイメージした必要なものを作って遊ぶ、表現することができる。 ・自分なりの表現方法で伸び伸びと表現あそびやリズムあそびを楽しむ	・自分なりのイメージをもち、身近の素材を使って感じたこと、考えたことを表現する。 ・困った時には保護者の姿を見て学び、自分なりの方法で物や人との関わりを表す。	・生活の中で自分が経験した事のイメージを膨らませ、友だちの表現を感じながら自分なりの自己表現をする。 ・友だちと共通のイメージや目的意識を持ち、協同で様々な表現をする。					
養護		生命の保持は、眠い時に寝る・お腹が空いたらご飯を食べる、過ごしやすい環境を整えるなどの援助を行い、子どもが健康で安全に生活できるようにすること 情緒の安定は、抱きしめる・受け入れるなど子どもが落ち着いて過ごせるような援助を行い、自己肯定感を抱けるようにすること。											
子育て家庭地域		・地域に向けて「園庭開放」「未就園児クラス」の予定を知らせ、情報を共有しあえる場にしていく。 ・緊急時の避難対応について説明し、連絡先や連絡方法、緊急時の引き取り方法などを具体的に確認しておく。 ・一人ひとりの健康状態を、健康カードや連絡帳で知らせあい、家庭との連携を密にしていく。 ・保護者に安心してもらえるよう、お迎え時に園での様子を話したり、家庭の様子を聞いたりする。またクラスだより、個人懇談で育ちや経験を具体的なエピソードを交えて発信していく。											
防災安全		・防災訓練（火災や災害時の避難場所・経路の共通理解） ・救命講習（AEDの使い方） ・おもちゃの点検、洗浄、消毒、施設内外の設備や用具などの安全チェック ・ヒヤリハットの事例や事故報告についての対策 ・薬の安全管理（薬の連絡票の提出と保存・投与の仕方） ・交通安全教室（飛び出しの危険性・安全な横断の仕方を理解する。信号の意味と見方を理解する）											
食育		こどもが自分の意志で口を動かすことを学ぶ時期（一人ひとりの発育に沿って進める）	楽しい雰囲気の中で日々の食事リズムを規則正しく整える時期 自分で食事をした意欲が出る	保育者を仲立ちとして友だちとともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう。	食具を上手に使える様になり、一人で食べるものを選ぶこともできる「自立食べ」の完成期	友だちとも関わりが広がり楽しく食べる感覚を育てながら「自立食べ」から「社会食べ」へ移行。生活力や集団で生きる知識を食事より身につける。	食事行動の自立を意識する自分の健康を守る為の規則正しい食事（しっかり噛む、一日3食・楽しく食べる） ・社会の一環として自律製、食べ物への関心、大切にしているか感謝の気持ち						

●教育保育目標

- ・愛情と安心の下で、自尊感情を育み、明日を切り開く生きていく力をもった子ども。（養護）
- ・基本的な生活習慣を身に付け、自立する子ども。（健康）
- ・一人ひとりが自分を大事にし、違いを認め合って、相手のことも大事にできる子ども。（人間関係）
- ・豊かな環境を通して選び、考え、試行錯誤し、主体的に遊び学ぶ子ども（環境）
- ・自分の思いや考えを伝えたり、相手の言葉を聞きやりとりを楽しむことができる子ども。（言葉）
- ・豊かな体験を通して、自分らしい表現を楽しむことができる子ども。（表現）

